

# 吉本清信先生を偲ぶ

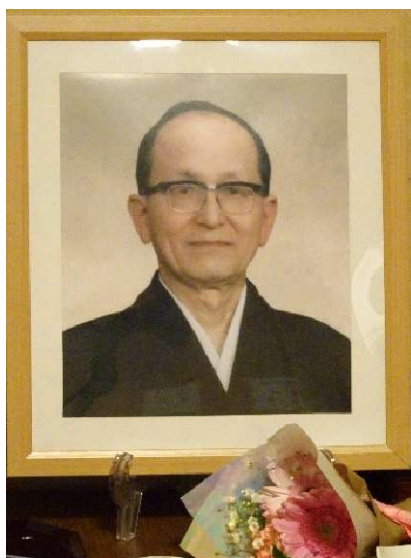
## 生い立ち

吉本清信範士九段は令和4年12月16日に亡くなられました。翌年の令和5年3月某

日、顧問の須田三郎先生はじめ西中正会長、阪中計夫理事長、西浦範光副会長、藤岡順副会長、奥様の吉本康子様、ご子息の吉本清巳様とともに先生を偲ぶ会が開かれました。(以下、敬称略)

須田 ちょうど一年前の3月、吉本先生の調

子が悪いと清巳さんから聞きました。まさかと思いましたが。また復活して下さると、いつものように元気になると思っています。今日は奥様も来ていただいています。私達の知らない先生の裏話もお聞かせいただき、先生を偲びたいと思います。



須田 享年78才か。若いね。体力的に60代と

70代は違うけどなあ。清巳さんは何才？

清巳 52年生まれの45才です。

須田 吉本先生は昭和19年生まれです。生まれは？郡山？

清巳 祖父は大阪です。

須田 大阪は戦争中で酷い時では？奈良に来たのは？

奥様 小学校4年生くらいで奈良に来ました。

清巳 祖父が内観寺をやる前は内装業をやっていました。祖父は内観寺(精神療法)

をやるための資金集めのためにその事業をやっていた。資金が貯まったので会社は親戚に渡したんです。

阪中 吉本先生のお父さんは心理学では大変

すごい人だった。内観という概念を作った人でしたね。

(※吉本伊信 内観法 昭和期の実業家・僧侶、吉本伊信が浄土真宗系の信仰集団・諦観庵に伝わっていた自己反省法・「身調べ」から秘密色、苦行色、宗教色を除き、万人向けのものとした修養法。内観法、吉本内観法、あるいは医療に 응용されて内観療法ともいわれる Wikipediaより)



いざ仙台へ  
大学生の時の写真

奥様 主人は上の兄2人が亡くなっています。だから戸籍上は3男でした。女・女・男・男・男(清信)・男・男。長男の扱いで、とても大事にされたと言っています。公立の中学校から、奈良高校へ。

須田 初めて吉本さんを知ったのは、井上先生がきっかけだった。奈良医大に受かって東北大学と北海道大学にも受かっていましたよ。

奥様 お母さんに海を渡らんでくれて泣かれたそうです。奈良に来た年に国体があった、皆さんと仲良くなれたって言っていました。教士もっている頃かな？

清巳 内観寺とか、事業を継げよ、とか色々あったわけで、父は家を出なかった。だから行くのは奈良医大ではなかったわけ

です。父なりに祖父のことを認めていて、あとで内観寺を継いだのですが。

奥様 「内観しなさい、内観しなさい。」って言



東北大学時代 師範 目黒利吉先生と  
「我が仲間たち」



清巳 われるので嫌がってましたね。  
東北大学に行くことで、合法的な家出を  
したわけです。(笑)

それぞれの出会い

須田 範士研究会のとき、菊地慶孝先生が、昆

布先生に「吉本を頼むぞ、頼むぞ、息子  
同然の男なんだから。」と言っていた。吉  
本さんて、そういう人なんだという印  
象だった。

阪中 初めて吉本先生を見たのは昭和57年く  
らい。奈良国体の直前の、リハーサルみ  
たいな練習会のとき。模擬練習試合を奈  
良県連でしていた。須田先生と吉本先生  
が同じ立で、自分は進行係の練習をして  
いた時でした。

阪中 その時に吉本先生と須田先生が並んで  
引いていたのを初めて見たんです。  
その頃から我々の前に現れたんです。

須田 (西浦先生に) あなたがまだ選手でばた  
ばたしてるころ?

阪中 西浦先生はもつとやんちゃだった。吉本  
先生とはまだ一緒に練習していません  
たですね。

清巳 まだ石打の道場が出来ていない頃です  
か?

西浦 そうです。石打の道場が出来たのは奈良  
国体が終わってから。吉本先生が(奈良  
に)来られてから1年ちょっととしてか  
らです。

清巳 それまでは接点はなかったんですか?

西浦 娘さんは教えたけれど、先生のことは全  
然知らなかった。前の年に、兵庫県の竹  
内会長から「岩手から凄い奴が帰ってこ  
るぞ。」と言われていた。凄い奴ってどう  
いうことか?わからなかったですね。

(※西浦先生は中学校の先生で、吉本先  
生のお嬢さんを教えておられました)

奈良県での活動開始

須田 最初に立を組んだ時は、西浦・吉本・

須田の立ち順だったんだけど、すぐ西  
浦・須田・吉本になった(笑) 吉本先生  
は試合に行くのは好きじゃなかった。行  
かないって言う。京都大会は出たけど、  
県内はもろろんだけど、近畿大会も行か  
ないって言う。目標が全日本選手権に絞  
られていた。それではまずい、といった。  
奈良には吉本ありとなっている。どこに  
も出なかったら誤解されるから行こう  
って。それで行くようになった。

阪中 その頃、竹内修先生が頂点でしょうか?  
自分が国体監督をした時、吉本先生は強  
化部長だったからよく指導してくれた。  
吉本先生は指導部長、強化部長をしてい  
た。平成5年に、あの先生がするんだ

清巳 ったらやろうって思った。  
(父に)強化部長のイメージがないです  
が。

阪中 吉本先生が強化部長になったから僕は  
ついていったんです。

阪中 吉本先生が指導部に入った頃だと思  
う。  
あの頃に県連の立て直しを行った。わか  
くき国体(昭和59年)が終わって、ひ  
とつの時代が終わわり、平成5年に吉本  
先生が強化部長になられた。

西中 指導部長で講師であるのに、幕かけ・的  
かけもするんだ。何人か行っている人も  
いたけど、着物きて悠々と眺めている人  
がいたんだ。その時代は。

藤岡 奈良県なんかしないと、思われたん  
でしょうね。

阪中 須田先生が支部体制を敷かれて、(吉本  
先生が)各部の中身を整えて、ちゃんと  
県連が動き出していったんです。

阪中 須田先生が中国に行く前と戻ってき  
てから、県連の空気だいが違ったんじゃない  
ですか？

須田 吉本先生の、県連の(組織の)雰囲気  
を変えようという意識が凄かった。僕らも  
思っていたけど、僕らには変えるだけの

力がなかったなあ。しゃべったこともあ  
まりなかったが、色々考えてる先生やな  
と思った。どんどん変えていこうとして  
いた。そのひとつが県連の国体の進め方  
を変えようと。国体で(吉本先生は)進  
行係をやっていたから。目の前で見て  
いた。最後の東京と決勝やった時に、奈良  
は早くに終わってしまったって、斎藤先生  
(東京の落ち)がスパーンと決めて勝負  
が決まった。それを目の前で見ていた。



奈良国体の進行係  
自宅前で(隣は長女さん)

西浦 僕は奈良国体を最後にして、中てる弓は  
やめようと思っていた。国体もやめるし、  
中てる弓はやめよう。違う世界を見て  
みようかなと思っていたが、そんな甘い  
ものではなかった。吉本先生に出会った  
から変わったと思う。  
(※西浦先生はその時の国体選手の一人  
でした)

須田 吉本先生は、国体でのあなたたち(西浦  
先生たち)の姿を見ていた。僕は言葉で  
は言いたつもりでも力がなかった。通じ  
なかった。

西浦 僕らの所には何の話もこなかったです  
須田 吉本先生が凄かったのは、がんがん言う  
事はなくて。自分のスタイルでじんわり  
と沁みとおるように影響を与えた。影響  
を受ける人間がでてきた。口では何にも  
言わない。時間を測って新しい試みをや  
った。実行しながらやったのが、僕らに  
はできなかった。その凄さ。

阪中 ずっと背中で見せていたんでしょう。

藤岡 国体強化を語る会を作ったのが、吉本先  
生が強化部長だったときですね。

阪中 「強化を語る会」をしようと言われた。  
強化部長やっていたから、纏めてくれと  
言われた。事務局に入ってから、「連盟  
を語る会」に変わりました。

須田 (先生が)強化部長の時、吉野(竹林院)  
に行って、1番がこうしたときに2  
番がどうする、3番は、って時間を測  
ってきっちり決めて練習して。

西中 そう、それで強化のリズムができた。遠  
的の矢の高低なんか、何kgの弓で60m  
飛ぶのに勾配なんぼとか計算したなあ。

阪中 選手3人で12本の矢を綺麗に流れるように。制限時間の中でいかに綺麗に流れ出すかをやったのは吉本先生だった。

阪中 膝から弓があがるのが1秒しか狂わない選手がいた。同じリズムでいくようにできるようになった。

須田 吉本さんは岩手で国体出てる？

奥様 宮城です。1回くらい出ていたかな。

西中 その頃、東北で、1番が何分何秒で、2番が・・・というリズムがあつて、きちっとできていたから奈良でやろうとしたんだな。

阪中 あの国体の時、弓道誌に書かれましたね。東京が抜いたら奈良が喜んだ。相手が抜いて喜ぶなんてあかんと。

須田 (お詫びの気持ち)文章にして弓道誌に載せてもらおうと、昆布先生に見せに行つたんですよ。地元としてすみません、と。昆布先生は、「やめとけ、それは載せない方がいい。これからの態度で示せ。」と。「連盟として変わっていく姿を見せろ。」と。昆布先生がすごい判断だった。

西中 昆布先生になつてから、変わったな。

須田 あの時の昆布先生の判断が良かった。実際、吉本先生が変えていった。

阪中 一人ではできない、須田先生もいたから。

西浦 やり易さがあつたんでしょね。

西浦 (奈良に)帰ってきてから、連盟をなんとかしたいと思つた時に、吉本先生は悪く言えば須田先生を抱き込んで(笑)そこでやっていこうとしたんでしょね。

西中 奈良県の体勢を吉本先生が上手く作ってきた。自分のための弓だけで六段や七段や教士を目指している人はもうそれに協力できる人、もっと段位・称号を生かしてくれる指導者が欲しかった。吉本先生からそれを言われてきて、我々(西中・阪中)は引き継いで(県連のために)、自分のためだけでなくやってきたつもりだ。

清巳 (※昆布先生 奈良県弓道連盟当時の会長で書家でした。檀原公苑弓道場・布目の道場に掲げられている「射裡見性」は昆布先生の書です。)

注目的

清巳 さっきの西浦先生と須田先生、父と一緒に引いていたのは何の大会でした？

西中 近畿大会。昔はチーム作つたら行けたんだ。

西浦 (石打の)道場ができるまでは全然知り

合いではなかった。知り合いになつてからの話。全日本とも行っている頃。「近畿大会」という名称になっている頃。それまでは「阪奈大会」だったんですよ。

須田 その当時は制限時間がなかったな。そしてね、僕が打ち起こすと皆カメラを構える。だけど僕のことには撮ってくれないんだ。後ろの吉本先生を撮ろうとする。

阪中 迷惑ですね(笑)

西浦 それまで観客なんてパラパラなのに、我々3人が射位に入るとわーっと集まつてきたな。

良き仲間めぐりあい

清巳 布目の教室メンバーで偲ぶ会というか話をしたのですが、西浦先生は、「吉本先生は自分のことをどう思っているのかな。」と気にされていたが、母は「常に傍にいて、見てくれる人がいて良かった。」と父から言われていた。「そういう人を見つけてなさい。」と、称号者研修会で皆にも言っていましたね。

(西浦先生に)わかき国体後で自分の道場ができたのは何段の頃でしたか？

西浦 錬五です。須田先生、吉本先生は教六。

阪中 五月に教七受かつてますね。同時に。

奥様  
すぐ喜んでいました。須田先生と一緒に  
で。59年に奈良に帰ってきて、翌年の  
60年に受かりました。



須田先生との練習風景

阪中  
昆布先生が会長の頃です。「お二人が最  
難関七段を・」と挨拶されたのを覚え  
ている。

須田  
審査の二次終わって、吉本先生が大沢先  
生の所に挨拶に行っただ。「今年は良  
かったね。」と言われた。「今年は良  
かったって？」と聞いたら、「実は昨年一次  
通っていたのに、帰ってしまっ。後で  
知った。」「あとで家に帰ってから聞い  
た。」そういう事を一言も言わないんだ  
よ。いつも一緒に練習しているし、審査  
も行ってるのに。

清巳  
七段審査で一次審査が片矢のみだった  
ので結果を見ずに、岩手に帰ってしまっ

た、ということですね？

阪中  
早く帰りましたか？

西中  
普通は帰るよな。

阪中  
でも普通の人じゃないから。

須田  
一言もいわないんだよ。悔しいよな。絶  
対言うよな、他の人だったら。「今年こそ  
いくぞ。」と。

清巳  
家族は聞かされているので(笑) 当時は  
言っていなかったかもしれないけど、晩  
年にそのエピソードを聞いていたのか  
もしれないですね。当時の岩手の上司は  
怒られていたかもしれないですね。「あ  
いつ帰ったぞ。」って。

西浦  
僕は結構早い時期に聞いて知っていま  
した。当時の審査員の方にお詫びの手紙  
を書いたって聞いています。

阪中  
鈴木住尚先生は「甲矢は金色を感じた、  
乙矢は銀色を感じた。」と。凄いですね。

須田  
終了後、京都駅に帰ってきて、たいした  
店もなかったけど、乾杯したんだ。

清巳  
須田先生は弦切られた？

須田  
2次審査で弦切って、戻ってきたら、  
吉本さんが「処置が良かった。」って。で  
も、「射が良かった。」って言ってくれれ  
ばいいのに(笑)

須田  
この時の審査では、川村、本多、澤田の

各先生方と、吉本、須田、一緒に7人  
通った。

皆  
すごいメンバーですね。

須田  
今残っているのが、川村さん、澤田さん、  
僕。

西中  
国際弓道連盟発足の時に、この人達が並  
んでいたのが、すごいと思ったな。  
吉本先生が俺の中で生き活きしていた



国際弓道連盟設立記念レセプションにて 平成19(2007)年4月



右 国際親善スポーツ祭(ドイツ)へ 川村先生、本多先生と(1992年6月)

左 親交は続き、奈良県の称号者研修会(2018年他複数年)にも講師として来ていただきました

のは、国際連盟ができて大会やった時だった。周りも皆一緒に範士になって並んでいて。すごい時代だった。(国際連盟発足式に)参加させてもらったなあ。今の範士の上層部の方とかが、まだ範士になるかならないかの時。川村先生とか、本多先生とか。近藤先生、石井先生とか、いいメンバーが揃っていて。この時期が一番活き活きしていたし、周りもしていたな。

### 森川勝先生

須田 千島基嗣先生が亡くなって、僕にはしばらく着く先生がいなかった。森川勝先生はその頃、大阪で自分の会を持ってなかった。でも、森川先生の所なんか行くな、高圧的だ、と言われて止められていた。言葉はきつかった。だけど射がいいから、吉本先生に「僕は森川先生の所に行きたいと思うけど行かないか。」と言ったら「ぜひ連れて行ってほしい。僕も行きたい。岩手を出る時に菊地先生に、森川に習えと言われた。」と。

西浦 それは聞きました。

須田 それじゃあ、「よっしゃ行こう。」と言って二人で森川先生にお願いした。初めは奈良の道場に来てもらった。

西中 来てもらった？すごいな。

須田 電車に乗ってバスに乗り換えて長い時間をかけて道場に来てくださった。それを僕ら2人は知らなかった。そんな苦労して来られたことを知らなかった。えらい目をおかけしたなど。その後、先生が京橋のところの脇田弓道場で自分は

やっているから、そこへ来てくれるかと言われて行った。曲がっている道場というより…。

西中 弓道場っていうより射的場のようなところだな。  
(※脇田弓道場 京橋駅構内にあった弓道場。現在は都市再開発計画により取り壊されている)

須田 先生は太子町だったからすぐ近くだった。そこへ何回か行かせてもらったんだ。ホーム道場では体配できないから、高津の道場に行くから来なさい、と言われて。(※南区高津公園内(現在の中央区高津宮北側)にあった大阪市営の弓道場。平成9年頃に閉鎖)

何回か行っていたら、森川先生は俺なん



称号者研修会1  
森川勝先生の指導を受ける



石打道場で西浦先生と練習

か見てくれない、吉本先生ばかり見て  
る(笑)

西浦 僕が行かせてもらった時は鍊六の頃だ  
った。吉本先生がどんな風に指導されて  
いるか知りたかったんですよ。

西浦 全日本で1回目の優勝された後に県代  
表で一緒に行かせてもらった時、吉本先  
生は大落ちだったんですけど予選落ち  
された。その時に川村先生と本多先生  
と千葉の渡辺さんという人が「しっかり  
見やなあかんで」「吉本先生の射をしっ  
かり見なさいよ。」と。「勉強しなさいよ。」  
と言われた。その時とてもショックだっ  
た。俺が教えてもらおうとかそういう事では  
ないとすごく思った。「(僕が)先生を  
見やなあかん。」以前から研修会に誘わ  
れていたが僕なんか、と一語一語一語に  
は行かなかったが、そのことがあって森

川先生が吉本先生にどんな指導をされ  
ているか知りたい。そう思ってた。一緒に行  
こうと思った。

須田 吉本先生は自分が何て言われているか、  
それを横で見たいと欲しかった。だから西  
浦先生に来てもらおうと言った。

奥様 全日本に行くにはとにかく(西浦)先生  
に見てもらっていましたね。

西浦 森川先生は僕の射を見て「教士は通るけ  
ど七段は無理。」って言った。散々言わ  
れたのは弓手の肩甲骨。肩甲骨をもつ  
とカーツと出せと言われた。

阪中 肩を言い出したのは森川先生ですね。

西浦 その時はそんなの全然わからないから  
「こうか? こうか?」って一生懸命やっ  
てみるんだけど。森川先生が親指で肩

甲骨を押しただけで、それでもわからな  
かった。「これを矢に近づける。」って言  
われるけどどうしたらいいかわからん。  
最近ちよつとずつわかってきた。

阪中 大阪で大学生の時に2回見たことがあ  
る。百舌鳥八幡宮で1月2日の神事  
があった。大学が堺市だから府大の学生  
が手伝っていた。四ツ矢2回八射皆中  
した先生がいた。それが森川先生だった。  
すっごいな、カッコいいなと思った。一



称号者研修会2

左から 中埜先生、森川先生、吉本先生、  
土谷先生、増田先生

目惚れした。森川先生からその後教えて  
もらう機会があるなんて思わなかった。  
3年になった時に審査に部員が行く  
から同行して、昼休みに射場で休憩して  
いたら、「参段を受けに来る中に弓返り  
のせん奴がおる!」と森川先生が怒りに  
来た。強烈な印象だった。  
(※森川勝先生 範士九段 大阪府  
全日本弓道連盟の中央審査委員や講師  
としても活躍されました。)

誠実さ、生真面目さ——

須田 高津の森川先生のところに、富雄の駅で車をとめて吉本先生を乗せて行っていた。東大阪から道頓堀まで渋滞でえらい遅れて、森川先生にえらい怒られたことがあったんです。「約束は守らないといけません。」とピシッと怒られた。ぼくは「すみません。」って言って。次の時、早めに車で行かなきゃと思ったけど、吉本先生は「車はやめよう。電車で行こう。」と言う。そこが僕とは違う(笑)

阪中 そこが違いですね(笑)

須田 真面目っていうか、その誠実さが違うんだなあ。

取り組む姿勢——

須田 吉本先生は恵まれていましたね。山の診療所の仕事だから練習の時間があつた。吉本先生は森川先生の所の練習から夕方帰ってくると「西浦道場にこれから行く。今日教わった事、今からやろうよ。」って「山の道場へ行くよ。」って言う。ちよっと待ってくれよ、俺、明日の授業の準備あるのにそんな時間ないよって、それが一番つらかったかな。先生必ず言

うんだよ。「今日やったことやろうよ。」って。実際、山に練習に行ったよ。一緒に行行って、言われていること見てもらって練習した。

阪中 吉本先生の所に我々(西中・阪中)を引っ張っていってくれたのは須田先生でした。島根の研修会に須田先生が講師で招かれ、それに同行させてもらった時に、須田先生が「君たちは本気か。」と聞いてくれた。「私たちは森川先生に通ったよ。君たちも本気なのだったら吉本先生を紹介するよ。」と。おかげでここ(布目)に10何年通わせてもらった。

須田 吉本先生が講師で行ったのは新潟・福井・広島・熊本・千葉・・・

清巳 千葉が多いですね。

須田 新潟に行ってから、吉本先生がめずらしく自慢話した。新潟に行つてしばらくしてから称号者が増えたんだよ、と嬉しそうに言った。一桁から20数名になつた。嬉しかったんでしょね。

阪中 新潟でそれだけってすごいよな。奈良より新潟のほうが環境がいいんだよな。

西中 最後までなんだろう、九段になつてからは病気との闘いもありましたけど。病気の

清巳

せいで役職を続けようっていう気持ちが続かなかつたのもあつたし、大変な思ひもしたので嫌になつていいる感じもありました。

清巳 西浦先生が八段を受けていた頃は(父が)会長になる前提で受けていたんですよね?その頃(父)はやる気はあつたんですけど、それで西浦先生に八段頑張つてほしいと思つていたみたいです。

西浦 「八段どうしたらいいですか?」って聞いたのは、先生が日弓連の会長になるという感じがあつたから、僕はどんなふうにも恩返ししようかなと思つて。ちよつとも先生の手助けができるように、先生が中央に行く機会が増えるなら自分もちよつとずつ中央に向けてるように頑張らないといけないかなと思つてた。

須田 吉本先生が審査員でずっと出てる時に、

「西浦さんを八段にするのどうですかね。」って聞いたたら、「いや、まだまだだ。」「審査でダメですかね?」「まだダメダメ。全日本で活躍しなきゃダメ。」ってパツと言つた。全日本で活躍しなければ八段はだめだつて。

阪中 全体的にそういう評価だつていうことですね。

須田 例外もあるけれど、会長をずっとやって



西浦

たとか。基本的には全日本で活躍しなきゃダメとはつきり言っていた。

それまでは先生から審査を受けなさいって言われたことはなかったんですよ。ただ先生は、教士受けるときには、「教士

ってなが必要かな。」って、そういうことを練習しているときによく言われた。そう言われた時に「ああ受けてもいいのかな。」と思って受けさせてもらった。

「八段受けようよ。」って須田先生から言われて、吉本先生に「八段どうですか。」

って聞いてみた。「七段とってから何年なる?」「5年です。」「受けてみなさい。勉強だから。」その次の言葉が「だめでも推薦があるから。」これを聞いて、ああ、これはまだまだあなたは無理ですよってことなんだなと思いました。

### 全日本出場の頃——

須田

お母さんが体調悪くなって介抱されていた時期がありましたね。全日本の頃だな。

清巳

伊勢を日帰した話ですね。

全日本の時、その年は1次予選、2次予選があった。1次皆中してかなり点数良くて、2次予選の一手で皆中して



第39回天皇杯 菊地慶孝先生と  
昭和63年(1988年)9月 44才

清巳

翌日、決勝の最初の2本は外しました。「ひきずってしまった。」と言っていました。3本目からは皆中。あの頃は決勝6本でしたね。

阪中

(※この時の結果 最高得点賞)

西浦

あの先生が勝つたびに色々なルールが変わりました。

西中

2回目の優勝の時なんか、変わった、変わった(笑)

藤岡

鴨川会長な、決勝採点制とかな。あれは面白かったですね。

(※前年度までの予選一次4射・二次4

射の採点制、決勝6射的中制が、予選2回8射は同じ、決勝一手も採点制に変更された。)

阪中

ずっと中で続ける魅力と、一射絶命の魅力って違いますよね。吉本先生と佐竹万里子先生がいるからこそその魅力で弓をやっている人はもの凄くいると思う。

須田

基本的には吉本先生の前に川村光良さんがいたんだよね。川村さんが常に先頭に立って優勝とか最高得点とか取っていた。吉本先生は川村さんを買っていたね。

西浦

そうですね。

阪中

全日本で控えが近かったんですけど、床几に皆緊張して座っているのに、ある先生はずっとゴム弓をしていたりする。吉本先生や川村先生は絶対そんなことはない。態度が違いましたね。

西中

入口に手をつけて肩入れしている人もいたなあ。その頃ね、あの先生は自然と色々やっていたけど、吉本先生が(そういうことに)心を傷めているのを何人が理解していたかな。

須田

人に求めようとしなかったからね。僕らもね、その気持ちを受け止められるだけの土壌がなかったよな。

阪中

察知する能力がないと無理でしたね。

## 最後の全日本選手権

須田 伊勢に全日本で初めて行った時。吉本先生は岩手代表で出たりして、何回目かだったかな。行射後にすぐに観覧席に行つて点数つけ始めるんだ。この人何しとん

のや、と思った。プログラムに点数書き込んで、結果の点数と比べていた。出るばかりの人間だけでなく、そういう意識の人間をつくらなければいけない。

阪中 全日本に2回出場したけれど、1回目は吉本先生、2回目に清巳さんと。

1回目、吉本先生が最後の年だった。西中、竹村、吉本、阪中の4人で行った。吉本先生はディフェンディングチャンピオン。範士になってしまったから翌年は出られないから全日本へは最後の年。奈良代表で阪中。西中・竹村が近畿ブロック(和歌山県田辺市)で勝って、最高人数だった。初めてだからどう見たら良いかわからなかった。先生は、僕が当時錬六だったから、同じ錬六メンバーがどう評価されているか、観覧席で見たらいいと言われた。指導しながら、自分の冴えも考えている。この時吉本先生が1回目2本はずした後、第2道場をみたら、一人黙々と。皆、会から離れた

練習するが、吉本先生は入場から離れ

までをきちつと何回も練習していた。四つ矢持っていつて引いたっていいのに、最初から最後まできちつとする。でも全然あたらなかった。その時は声をかけられなかった。

阪中 でも4射0中でも点数では10番目にいた。驚きだった。自分は4-2で

50番だった。西中4-3で30位くらいだった。

清巳 範士になってしまっているからあんまり低い点数は付けられなかったのでは。

また、範士だからこそ、そういう射をしよう、入場から退場までの練習になったのではないのでしょうか。

## 奈良県連70年誌

須田 今川静男さんは吉本先生のこと良くわ

かってたから。奈良県にきて東北の阿波研造の流れを広めようという気持ちは今川さんは強かった。郡山の協会はそれを引き継いでいる。布目に挙げている阿波研造の写真やいろんなものは今川さんが贈ったものなんだ。

清巳 最近額の裏を反したことで、知りました。今錬士になつていような人でも、井上哲夫先生も伊藤登先生も知らないんだ

よな。

阪中 今日の檀原の練習会で、「夕方、吉本先生を偲んでの会があります。」って挨拶したんですけど、吉本先生を知らない人は何人かいた。「これを企画したのは須田先生です。須田先生は知ってる？」やっぱり知らん人が何人かいた。

阪中 吉本先生と須田先生というすごい人たちと30年付き合えたのはうれしい、その方たちと語るのも、良さを知っている

ので、また伝えていきたいと思ひます、と挨拶してきました。

西中 若い子に「前の会長の井上先生を知ってるか。」って言ったたら「どなたですか？」って言われた。過去の人のことなんか興味ないんだ。でも「吉本清信」っていう存在は、いつも耳にするからまだ生きてる。井上先生の時代でまだ頑張ってるのは竹村さんや新司さんだな。

須田 吉本先生に借りがあるんだ。奈良県の連盟史。それを纏めてくれて頼まれたんだけど。できなかったやろ、70周年の記念誌。「須田さん、やってくれないか。」って何度も言われた。僕、無理やと思った。引き受けても、年齢的にも、経緯や情報を知らなくて、無理だと思った。誰か傍にいてくれてればいいんだけど。

でも、先生ごめんって言って。「僕、自信ない。」って言って断ってた。今になつたらやっていたら良かった。申し訳ないと思ってる。

阪中 僕が今預かっています。本気で一緒にやってくれないかって頼んでいる人もいる。記録だけでも残そうと思ってる。

須田 それで 70 年誌はできそうなの？

阪中 いやもうデータ自体は揃ってるんですよ。あとは修正作業だけ。写真はあつて。編集するのは大変。一人ではなかなか重い。誰かやってくれたら。皆さんにチェックしたりしてもらったけど、それを修正するのだけでも大変。一人では大変です。

強い想いが人を動かす——

須田 最後に家庭での裏話、聞きたいな。

奥様 どこに行っても、連絡だけはキチンとしてくれました。でも、自分のやりたいことは、すべてやる人でした。

須田 写真、やっていたんですよね？写真家だった。

奥様 (岩手県) 沢内村にいたときは、田舎なのでどこにも行けないですよ。それで、そういう趣味をとということで写真をや

ってました。自分で暗室に入って現像もしてました。

奥様 沢内村では岩手県連に所属していたのですが、会長の大沢万治先生と村議会の議長さんとが友人で、小学校を解体した材木を使用して村の道場を作ってくれました。かなり雪深い所で、積もるんですが、朝からの一つぶんだけ雪かきをして引いていました。



雪かきしてから練習  
(岩手県沢内村(現西和賀町)の旧道場 1983 年頃  
その後 1989 年に建て替えられている)

須田 昔の(山添の)住宅知ってる？坂の下の。



玄関前で巻き藁練習  
(本文中の「前の診療所」ではなく新しい診療所  
医師住宅前。布目弓道場完成前の頃)

西浦 倉庫みたいな所的立てて。こつちから道のところから引いてたよね？

奥様 あれは、ちよつと距離足らなかったですよ。

須田 そうですね。車庫の中に安土を作つてました。

奥様 玄関開けたら、そこで弓引いてるの、危ない、危ない(笑) こんな所で引くのって。

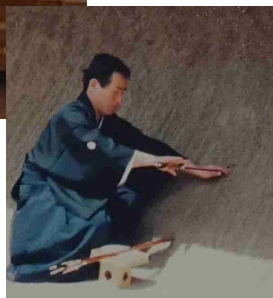
阪中 それが山添？

西中 坂を下った山の所に、昔の診療所があつてね。そこで。

西中 でも 10 m ほど足らないんだ。 18 m 位。それでも離れを出せば的に当たるんだ



上段: 布目 英明館  
建築の様子  
下段: 現在の様子



布目 英明館 道場開き 築固め  
平成5年(1993)4月25日  
介添えは西浦範光先生

よな。

奥様 いつも、「引きたい、引きたい。」ってばかり言っていました。

清巳 それがあったので、石打に行けるっていうのは喜んでました。だから雨の日も風の日もっていう勢いで石打に行っていました。

西浦 先生が奈良に来たのが59年の6月か7月だった。その年の国体の後、月ヶ瀬(石打)に僕が引越して道場を建てた後ですね。奈良に来て一年後くらいに石打の道場を見に来られてからですね。

奥様 西浦先生の所に行き、奈良の道場に行き、と夜な夜な道場を求めて練習に行くわ

けです。あるとき中窪さん※に話す機会

があり、「こんなんで家にいないんですよ。」って愚痴ったんですよ。そうしたら、(中窪さんが)道場を作りましょうかって。たまたま均していた土地があつて。

阪中 布目道場の生みの親だ。道場は間伐材で作ってくださいました。道場ができてからは、中窪さんのお子

西中 さんたちが習いに来てくれました。

めなんだな。周りが動いたんだ。

(※故・中窪英明さん 地元の名士であ

り布目「英明館」の館長。診療所に来られた清信先生と地域の活性化、弓道を通して子どもたちの成長のためにと道場を建てられた。奈弓連だより74号より)

(※英明館 布目の道場は昭和59年に先生が山添に来られてから9年後の平成5年に完成。)

### せっからな性格

須田 奥さんがあちこち送迎してたんでし

う? 迎えに来てくれるって言った。

奥様 いえ、ほとんど自分で行ってきました。と

にかく渋滞が嫌いで、電車の方が確実だからって。駅に迎えに行ったりはしていませんね。

須田 せっかちだったなあ。同じ部屋だったと

き、やめてくれて思ってたよ(笑)。早く起きるしな。

西浦 競技会や地方の研修会や中央研修会に、

先生が講師で行ったとき。「一緒に帰ろう。」って言うてるんですけど、後始末が早い早い。先生の弓を巻いたりしようって思うけど、早い。私は自分の始末するので精一杯。先生の片付けのお手伝いなんかできなかった。電車に乗るのも

早い。待ってくれって。先生のお世話は全くできませんでした(笑)

須田 地下鉄乗る時もだーと行ってしまう。

西中 (至誠館からの帰り)新宿から新幹線に乗るコースもいつも決まってる。切符も皆持つてる。そういえば新幹線ではビール買ってくれたなあ。

清巳 母はついて行くのに常に小走りでしたね。

阪中 済寧館でテレビの取材があった時も、さつさと行ってしまうって振り返るのはだいぶ後。あれが全国に流れたな。待ってあげたらいいのになあ(笑)

(済寧館・京都御苑内にある弓道場。現在は関係者以外立ち入れない)

藤岡 吉本先生が会長の時は、質問をしたら秒で(返事が)かえってくるんですよ。

西中 「いつもPC背負ってるんですか。」って聞いたことがある。

阪中 事務局で連絡出したら、西中さんはいつも返事こない。吉本先生はすぐ返事がくる。

藤岡 吉本先生は、夜遅くは返事がなくて、朝早いなだよな(笑)



## 範士、袴を忘れる

清巳 京都大会で袴を忘れたことがありましたね。でも、背が高いから藤岡さんにか借りられない。

藤岡 最初、「使ってください。」って黒袴を渡したら、先生は借りる立場なのに、「ん？稽古袴か。」と言われたんです。(笑)

清巳 で、藤岡さんは縞袴をその場で買って、父に貸してくれたんですよ。

藤岡 (※京都大会では、弓具店の販売がある)よくよく考えたら、これ、写真で全国に回るなって思っ。「藤岡」って刺繍がしてある袴をはいた範士の写真が(笑)

## 最後の時と迎える

清巳 最後の頃、脳の病気のせいでだいぶ怒りっぽくなっていたんです。そういう病気がだからって言うてはいたのだけど、2週間くらいはかなり悪くなっていました。

もともと頑固ではあったけれど、前頭葉の場所によって理性の抑制がきかなくなる。姉とか母とか介護している人には大分きつくなっていました

奥様 清巳から、覚悟しとけよって大分言われていました。

清巳 調子が悪くなり始めた頃は、なぜ調子が悪いんだ、と自分で受け入れきれなくて、怒りっぽくなっていました。それでも最後の2週間は、自分の命が短いって悟ったみたいで、あんまり言わなくなっていました。

奥様 家のことでも内観寺のことでも、聞いても何も答えなかったし、言い残しているって事は何もないですよ。今考えると、私達がそれに拘らないように思っただのかなって。皆さんにも何も言わなかったんじゃないですか。言い残されたら逆に大変だったと思います。ただ、布目の道場のことだけは、私に「頼む。」って。

「清巳じゃないの？」って聞いても首を横に振って。たぶん後の私のことを思っの事だったんじゃないかなって思います。布目を任せられたことで、皆さんの練習を見させてもらったり、芝桜や花の手入れをしに行ったりと、皆さんと関わる、布目に行く理由があるように思うんです。



亡くなる数週間前に左手で書き上げた「三誓偈」は奥様に捧げられた



清信先生を囲んで

後列 藤岡順先生、吉本清巳先生、  
阪中計夫先生、西浦範光先生  
前列 西中正先生、吉本康子様、須田三郎先生

《編集後記》  
先生のお人柄を知れる温かな会でした。吉本先生をよくご存知の方も、またそうでない方にも、清信先生をもう少し知っていただきたいと、会の内容を公表させていただくことをお願いいたしました。須田先生はじめ、お話をくださった先生方、奥様、清巳さんに感謝申し上げます。たくさんの方々と交流されていた先生です。もっとたくさんのおい出を皆さん各々がお待ちと存じます。先生のお誕生日に発行させていただくこの号で、ひと時、清信先生を偲んでいただけましたらと思います。

(編集担当 松澤和実)



前列 左から島岡孝雄先生、増田勇先生、昆布富明先生、森川勝先生、増田美和栄先生、岡田弘先生、米本義一先生、須田三郎先生 (吉本先生がまだ受講生の頃 前から3列目左)奈良県講習会にて



九段昇段祝射会 布目弓道場(英明館)にて 平成 23(2011)年 9 月